

令和4年度 朝来市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 認知症施策の組み立て
 - 認知症に関する地域ケア会議「脳耕会」の運営
 - 認知症高齢者等SOSネットワークの運営と推進
 - 認知症ケアパスの活用と推進
 - 認知症初期集中支援チームの運営と連携
 - 介護者支援として認知症カフェの支援
 - 認知症キャラバン活動の運営と支援
 - チームオレンジのによる本人、家族、地域のしくみづくり
 - 認知症相談センターとの連携の強化
 - 若年性認知症の人と家族の支援と検討

報告者氏名： 小畑 知見

朝来市 認知症施策全体図

●認知症施策全般の検討と推進

脳耕会

住み慣れた地域で安心して暮らし続ける共生社会の実現

認知症の人や介護者への支援を包括的に実施できる体制の充実

認知症相談の身近な窓口の周知
認知症サポーター養成講座
キッズサポーター養成講座
認知症チームオレンジの活動
あさごいきいき百歳体操

認知症初期集中支援チーム
認知症SOSネットワーク
認知症高齢者等GPS助成事業
損害賠償責任保険加入事業
認知症カフェの充実

認知症一体的支援プログラムモデル事業
の準備

若年性認知症の人と家族
への支援の充実



標題 朝来市におけるチームオレンジにむけた取り組みについて

高齢者（88）の暮らしについて

5年前突然に
逝去。

夫
逝去

本人
88歳

養介護 1

物忘れがありゴミの
日が曖昧になったり、
出し方で近隣とトラ
ブルになる。

本人の思い

「忘れることが増え
てきた。迷惑をかけ
ないようにしたい」

結婚し、京阪
神で生活。た
まに帰省し支
援をしている。

長女
54歳

次女
52歳

2年前から連
絡がつかない。

高齢者を支えるための向こう三軒両隣会(個別の地域ケア会議)



ゴミの出し方がおかしい。ゴミの日ではない時に出ていることもある。
ちゃんとしてくれな困る！と駐在所に通報。

【翌週の公民館にて】

- 長女
- 民生委員の声掛けで、区長、近隣者数名が参集
- 駐在所の警察官
- 専門病院の公認心理士がアドバイザー
- ふくし相談支援課が会議を主催

本人の暮らし支えるメンバーが集まり、個人情報を守りながら、頭を寄せ合い生活が出来る方法を考える会



向こう三軒両隣会議の成果→チームオレンジへ

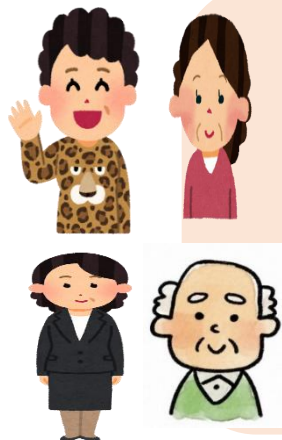
●長女から



- ・母は物忘れがあり日にちも分からなくなることがある。
- ・ゴミの日を忘れないようにゴミ箱に曜日を書いたり、カレンダーに書いたりしている。

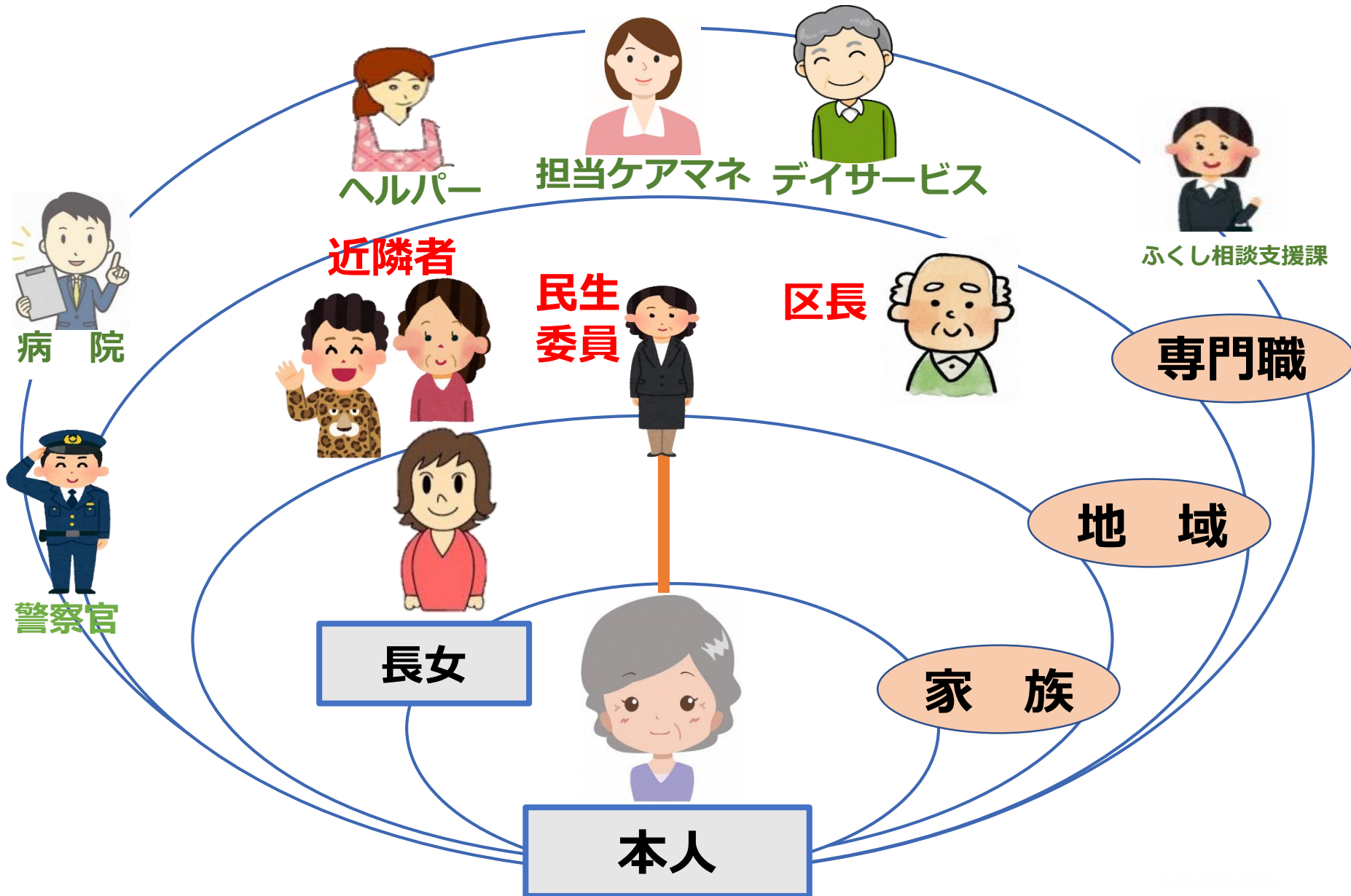
●認知症の症状についての理解、本人への声のかけ方などを専門医療のアドバイザーから説明することにより認知症の理解促進

●地域住民からの提案



- ・認知症であることは知らなかった。
- ・指定のゴミ袋を使っていなかったら、我が家のゴミ袋で出しておくわ。
- ・曜日がわからないから地区の体操に来れなくなってたんやな。声をかけるわ。

高齢者(88歳)の暮らしを支えるチームオレンジの仕組み



高齢者(88歳)の暮らしを支えるチームオレンジの効果

● 本人について



- ・ 本人は相変わらずゴミの日を間違え、指定のゴミ袋を使用せずにゴミを出すこともあるが、いまのところはトラブルになっていない。
- ・ 地域の人が見ついたら、指定のゴミ袋に入れ替えたり、こっそりと家に持ち帰ってくれている。

● 地域について (チームオレンジ)

- ・ 気になる人がいれば相談し、みんなで声をかける、見守るというスタイルが浸透してきた。

・ 最後に・・・

個別の地域ケア会議から認知症状の理解、声のかけ方などより具体的に地域に伝えることができました。認知症を理解したうえで地域からの見守り支援は当事者が自分らしく暮らし続けることのできる地域づくりにつながったと思います。今後も当事者のニーズを聞き、個別の地域ケア会議を通じて、チームオレンジの仕組みづくりと地域づくりを推進していきたいと考えます。